

一般質問発言通告要旨

通告者 1番 門脇晃幸

公教育について

- 1 新型コロナウイルス問題、仙北市の児童生徒への安全対策はどうなっているのか伺います。
- 2 来年度より始まる教育改革、準備は万全か伺います。(特にプログラミング教育)
- 3 教員の働き方改革と教育現場の矛盾の対策は教員の増員が有効とのことだが、教員一人当たりの生徒数は全国平均で何人なのか、県平均、仙北市ではどれくらいなのか。どれくらいの人数が適当と考えるか伺います。
- 4 文科省が2019年1月に「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を示しています。1ヶ月45時間以内、1年間に360時間以内となっておりますが仙北市の現状を伺います。
- 5 教員の業務負担軽減には、非常に多い事務処理を、教員でなくても出来るものは他に処理をして頂くことで、相当量の負担軽減につながると考えます。また、事務内容も合理的に整理すれば処理スピードも早まります。県や国へ働きかけるべきと考えますが見解を伺います。
- 6 文科省が2020年度からスタートを目指している「スクールロイヤー」と呼ばれる専門の弁護士を全国に300人配置する方針。各地の教育事務所などに、市町村教育委員会からの相談を受ける。経費は年間4億円を見込み、財源に地方交付税を活用する考え。この制度の詳しい内容と現在どのような進捗状況なのか伺います。
- 7 教育委員会ではこのスクールロイヤー制度にどのような期待を持っているのか伺います。
- 8 学校を取り巻く問題に対処するには、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなど、さまざまな専門家の力が必要です。「スクールロイヤー」制度をどのように運用していくのか、学校や地域、保護者を含めて議論を深めていく必要がある。と考えますが市はどのように捉え今後、どう向かっていこうとしているのか伺います。
- 9 県内小中学校、2018年度不登校者数27.4%増(前年度比)増加率過去最高。仙北市の不登校者の実態と、その主な原因を伺います。

10 千代田区立麴町中学校校長（工藤勇一）の「学校の {当たり前} をやめた。生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の開拓」この改革に対する主観を伺います。

一般質問発言通告要旨

通告者 8番 田口寿宜

1 財政について

令和2年度の当初予算案が示された。本市を応援して下さる多くの方々の温かいご協力をいただいた「ふるさと納税」のおかげで、予算を編成出来た面もあるものと感じる。しかし、依然として非常に厳しい財政状況は続く。消費税増税や新型コロナウイルス等々の影響による景気の悪化により、民間そして地方財政も益々厳しさを増していく事が予測される。施政方針に於いて、今後の財政見通しが示されているが、かなりシビアな見通しを持つ事が求められる。そこで、次の3点について伺う。

- (1) ここまで厳しい財政状況になった要因をシビアに分析しているか。
- (2) 分析した結果を基に、これまでどのような行動を取って来たのか。
- (3) 財政状況を少しでも改善していく上で、何が必要と考えるか。

2 新型コロナウイルス感染症について

世界そして国内に感染者が拡大している新型コロナウイルス感染症。政府も基本方針を示し、感染拡大のスピードの緩和に向け動き出した。本市でも、関係機関と連携を図りながら、様々な対策を講じている。人々の不安を解消する為には、正しい情報をしっかりと伝えていく事が重要である。この件について、次の4点を伺う。

- (1) もしかしたらと思った時、即座に医療機関へと向かうのが心理である。報道等でも順序を伝えているが、あらゆるツールを使用し、本市の医療機関での対応等も含め、もしもの時の対応をしっかりと周知するべきと考えるがいかがか。
- (2) 国内において、感染された方やそのご家族の方が社会的によろしくない対応を受けている実情がある報道を耳にした。こうした状況は作ってはならない。このような状況を生み出さない体制の構築と併せ、受けてしまった場合の相談体制等も検討しなければならないと考えるがいかがか。
- (3) 国内観光にかなりの影響を及ぼしている。終息の目途が見られない中、本市への観光にもかなりの影響を及ぼすものとする。アジア各地では渡航制限、国内では出控え等々、マイナスの動きが出ている現状をどう捉え、どのような対策を講じるか。
- (4) 政府でも、経営が悪化した中小企業・小規模事業者に対する支援策を打ち出し実行している。支援を受けた場合、返していくのが世の常である。軌道に乗せ返していくには稼がなければならない。新型コロナウイルス感染症もいずれは終息する日を迎える。それまでの間、そして、終息を迎えた後、稼げる環境を創り出す行動を官・民が強力に手を携え今から取り組まなければならないと考えるがいかがか。

一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊 一

1 財政と予算編成について

- (1) 財源が減少する中での予算編成はこれで良いのか。
- (2) 市が編成する予算案は住民の希望と一致しているのか。
- (3) 予算編成時と社会状況が明らかに違う状況である。補正予算等に十分対応が取れる状況か。
- (4) 一般会計から他会計（企業会計等）に繰り入れの現状をどう捉えているのか。
- (5) ふるさと納税に頼り過ぎの予算編成はやめるべきと思うがどうか。

2 SDGsのとりくみについて

- (1) 市民生活の中にはほとんど浸透していないと思うがどう捉えているのか。
- (2) 今後の進め方についてどう取り組むのか。（推進体制の在り方）
お祭りのイベントではなく、地域や職域の中でワークショップ等の積み重ねで進めるべきではないか。

3 公共施設の管理運営について

- (1) 不要な施設や使われない施設、土地についてどのような管理状況にあるのか。解体や処分の計画等はどうなっているのか。
- (2) 市当局はこれまでも年に数回しかない利用状況でも使われているとの認識であるが他施設の利用でも十分であるものはないのか。
- (3) 厳しい財政運営を迫られるなかでスピード感をもった対応が必要ではないのか。

4 市内の小・中学校における主権者教育について

先に市内小・中学生が「私たちの力でつくる仙北市」の子供議会が催されました。傍聴して大変心強く思いました。そこで

- (1) 学校に於いて主権者教育は行われているのか。
おこなわれているのであればどの様に行われているのか。
- (2) 子供たちの成長過程に合わせ、家庭や地域社会と連携した取り組みが必要ではないのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 16番 高久昭二

1 (株)田沢モータース植物工場「仮称ベジタブルファクトリー田沢湖」の事業展開について

- (1) 植物工場構想は仙北市と株式会社田沢モータース間でいつの時点でその話し合いが始まったのか。
- (2) 財源確保上、仙北市負担、株式会社田沢モータース負担をどの様に工面するのか。又、仙北市指定金融機関の役割等について。
- (3) レタス(リーフレタス等)「生産物」の生産及び出荷先確保の見通し等について。

2 角館下延大瀬蔵野橋「新橋」等架け替え工事について

- (1) 下延大瀬蔵野新橋事業計画はいつの時点で決定したのか。
- (2) 辺地債を利用しても市の財政負担が増し、仙北市の財政を圧迫するのでは。その為に、現橋架け替え工事が可能ではないか。
- (3) 新橋、新道路工事に伴う「用地買収」の手法等について。

3 仙北市小中学校義務教育の無償化推進について。

- (1) 小中学生保護者「義務教育上」負担の増加傾向について。
- (2) 小中学校「給食費」半額補助等の見通しについて。
- (3) 仙北市の「子育て支援」「福祉政策」等について。

一般質問発言通告要旨

通告者 13番 伊藤邦彦

1 神代地区農地基盤整備について

表記については、総面積 273 haの工事が現在進められている。

厳しさを増す農業情勢を打破し、ひいては自らの生活を守るため、この計画に立ち向かう地区の方々の先見性と意欲に強く敬意を申し上げたい。

その計画を進めようとする一区間の中を市道梅岡線が走っている。

この道路は何カ所かに渡り大きく蛇行し、冬期間は何台となく車が路外に脱輪する道でもある。

しかし、この工事によってその様な道路も改良されるものと期待する。

他方、この道路には苦難する同地区飲用水の改善に向け数年前、水道管が布設された。

道路の曲折を直し農作業の効率化を計るため、基盤の田園を作るのか、とすれば巨額な工事費を注ぎ込んで埋設した水道施設はいかようになるのか、その方向性をお伺いする。

2 仙北市危機管理について

人々が日々安心して暮らす、このことは健康であること、経済がままなること、地域社会に安全が確保されること、等が上げられると思う。

先般、消防出初式で新鋭の消防ハシゴ車が披露された。ハシゴの最大延長は地上 35m と言う。その性能の素晴らしさに胸躍り、又、安心感を覚えた。しかし、その購入価格が 2 億 4 千万と聞き驚きもした。その消防ハシゴ車は、大曲消防署に配備されると聞いたが、来年は仙北市が購入の予定とも伺った。しかし、然したる高層建築物もない自治区にその様な高機能車が必要とするのか……とも思える。

こうした中、医療体制や消防体制から切り離される地域がある。皆が安全安心の中で暮らすことが出来るよう目配り、気配りの配慮が必要と思える。

次についてお伺いする。

- (1) 上桧木内、田沢両地区の医療と消防体制
- (2) 田沢湖高原及び乳頭温泉郷の医療と消防体制
- (3) 市内防犯カメラの設置数
- (4) 市内街灯の要望数と実績
- (5) 新型肺炎ウイルス感染防止に取った本市の対策

3 地上イージスについて

県議会も秋田市議会も、ある団体から出された陳情と請願に対し継続が繰り返されている。本陳情は仙北市議会にも提出され本議会は不採択とした。防衛省が秋田市新屋地区に配備しようとする地上イージスに対して、陳情はその場所は学校や住宅密集地に近く一考を願いたい！とするもので私も同意見である。秋田市新屋は仙北市まで直線で30km程かと推測する。その様な所に配備・とてもお隣事とは思えない。

隣国に極めて無法的国があるからして配備そのものは必要不可欠であることは論をまたない。しかし、国が、防衛省が、自衛隊が、国を守り、国民を守るとする組織であるからして計画されている新屋配備は多くの住民を不安と危険にさらすものであり「分かった」とは言いがたい。

私は自衛隊を支援する組織の一団体に加入している身であるが、だからこそ申し上げたい。自衛隊はより多くの国民の理解を得てきびしい訓練を重ね国家、国民の為に激務を遂行して行くものと思う。我々議会も事によっては党派を越え、会派を越えて判断の上に立たなければ真の安全も住民生活の向上も生まれない。

そこでお伺いする。

市長はかつて県議会議員として「会派いぶき」を立ち上げその代表として県政発展に尽くされて来た、経験も知識も豊富な門脇市長は仙北市の首長として市民をどう守るのか「おとなりさんの事」とすまされるのか…… 所見をお伺いする。

一般質問発言通告要旨

通告者 9番 阿部 則比古

1 一般会計の予算規模が大きすぎる

今後、交付金の削減や自主財源の先細りが強く懸念される中、市内インフラの維持管理に多額の負担を強いられる。さらに各庁舎の抱える様々な問題や、不要になった（あるいは不要になる）市有建築物の解体整理にも相当額の費用を要する。合わせて想定を超える急速な市民人口の減少や高齢化による社会保障費の増大も大きな問題になりつつある。

つまり、これからが本番と言うべき時にあまりにも先行きを無視した財政運営をしてきたと言われても仕方が無いのではないかと、これで果たして持続可能な自治体経営といえるのか。

2 どうするつもりなのか本市の医療行政

市立角館病院の経営状況が思いのほか芳しくなく、更に3億500万円程、一般会計から繰り入れてほしいとのことだが、一体どうなっているのか伺う。

3 固定資産税の課税評価を見直す必要があるのではないか。

特に町部の土地に対する固定資産税評価が実勢価格に対して大きくかけ離れている場所が多くなっている様に思われるが市にとって安定した貴重な自主財源であることは痛いほど認識しているが、気の毒でならない市民も多くいる、見直す必要があるのではないか。

一般質問発言通告要旨

通告者 14番 真崎 寿浩

1 神代地区全域の水道計画について

令和元年度の「地域の意向調査」の結果を、どのように分析して事業を展開していくのか。

- (1) 意向調査の地区ごとの回答数や回答率について。
- (2) 意向調査の結果の具体的な内容について。
- (3) 結果を受けての説明会等の開催は？ 開催したとすれば、その時に出された意見等はどのようなものか。
- (4) 敷設計画から除外された地域への対応は。
- (5) 今後、年度ごとの見通しについては。

2 学校施設の充実について

- (1) 豊かな人間性を育む教育環境として、それぞれの学校施設は充実しているのか。
 - ①学校評議員等からの意見・要望の内容について
 - ②その対応については
- (2) 教職員の職場としての観点から、それぞれの学校施設の環境は充実しているのか。
 - ①学校評議員等からの意見・要望の内容について
 - ②その対応については

一般質問発言通告要旨

通告者 15番 八 柳 良太郎

住みやすい環境づくりと農林水産業の発展の為に

1 有害鳥獣の駆除について

2016年、クマによる死者が4人でたという衝撃的ニュースが流れました。又翌年2017年には仙北市でも玉川地内でタケノコ採りの人が襲われ死亡するという事故がありました。其の事故があつてから入山禁止が続いています。

2018年、新聞のクマの目撃情報はそれまでの最多で872件との報道でした。内訳をみると1位秋田市147件、2位は大館市、3位大仙市88件、4位は仙北市82件です。つまり仙北市と隣接する市計317件で1/3以上の目撃情報があつたことになります。

2018年はクマの生息数が過去最多3700頭と魁新報は報じています。

鳥獣保護法は鳥獣の保護を図るため生物多様性の確保をうたっています。しかし一方で生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与すべきとなっています。つまりそれが出来なければ有害鳥獣となり駆除することになります。

先ごろは田沢湖玉川周辺の国有林を管理する「市普通共用林野運営協議会」では2019年度末での解散を決めました。シーズンの入山者を管理する為玉川周辺の林道で入山料を徴収し林道整備や巡視活動の費用に充ててきたがそれも出来なくなったとのことであり誠に由々しき問題と考えます。

昨年11月11日会派蒼生会では京都府の隣の兵庫県丹波篠山市にて政務調査を行いました。人口約41,902人(30年5月)総面積は337.61^{キロ}で我市の約1/3の面積であります。有害鳥獣の捕獲を長年実施しており、30年度はイノシシ438頭、鹿881頭、アライグマ339頭他にサル、タヌキ等で年合計1,746頭捕獲実績があります。農作物被害額は年間1,640万円鳥獣別被害額、被害面積を調べ、県との連携を取りながら捕獲にあたっています。イノシシは「牡丹鍋」としてこの地域の特産になっています。

なぜ有害鳥獣の捕獲をするのか、なぜ6,000万円も予算をかけ、長い長い電気柵を設置したり、捕獲奨励金シカ2万円、イノシシ1万円にするのか説明を受けました。答えは農作物をつくる人々の意欲をなくしてはならないということだそうです。あきらめるのではなく、人間がすみやすい環境を自らつくるとのことだと考えます。

人身保護と野生鳥獣による農作物被害に対し、有害鳥獣対策を系統だて推進する必要があると考え、以下、考えを伺います。

- (1) 仙北市では過去5年間で捕獲を実施した有害鳥獣はツキノワグマ183頭、ノウサギ60匹、ウソ210匹、カラス362匹他にキジバト、アナグマ、カルガモ、ニホンザル等で計8種類、数の合計は864で多種多彩である。その被害はどのようなものであるか。その被害額についてお知らせ願いたい。
- (2) 6款2項1目林業総務費、有害鳥獣駆除事業費令和元年度有害駆除424万2千円(30年度420万円)の内訳はどうなっているのか。

①クマについて

- イ 2018年が生息数最多であり今も続いていると思われる。令和元年は56頭の駆除を実施したとの事であるが、毎年県で実施している調査と連動して今後毎年50頭以上の駆除許可を県からいただき捕獲してはどうか。
人身保護と野生鳥獣による農作物被害軽減とジビエ(野生鳥獣肉)活用で新たな食文化の発展に資するのではないか。一石三鳥と考えるがいかがなものか。
- ロ 角館町外ノ山近辺で近年クマの目撃が多くなっている。平成28年の細越のガソリンスタンド向かいの山と北高前の山の国道横切りの目撃情報、29年の橋本整形向かいの自動車会社の敷地の闊歩後裏山に消えた情報、東森林組合前の道路横断、菅沢住宅近くの下川原出没等である。これまでこれらの地域で人身被害は出ていないが、今後も出ないという保証はない。
岩手県いわて町では4月1日より10月31日までが有害鳥獣捕獲実施期間である。わが市でもその期間を有害鳥獣捕獲実施期間に出来ないか。
もっとすばやく駆除できる方法はないのか。
- ハ 古城山は2年前「クマに注意」の看板を掲げてから近隣の人あまり登らなくなったようである。当時ゴルフのパターを持って上がる人に御目にかかったりしたものである。クマにあった時の道具である。丹波篠山市では有害鳥獣が近づかないように電気柵が延々と設置されている。その方法ではどうか。北高そばのガソリンスタンド前のカーブミラー横の「獣道」に電気柵を設置したらどうか。
100%の安心とはいかないが、クマと言えどもびりびりを食らえば引き返すのではないか。少なくとも外ノ山方面からの古城山への進入は防げるのではないか。古城山が安心して登れる山に出来る契機になるのではないか。
- ニ 外ノ山旧東小野球場横道路のがけ下に2本の栗がある。住民の話では毎年栗を食べにくるクマがいるそうである。クマが出てから県知事の許可を得るやり方ではなく、クマが去ってから出動するのではなく、クリが食べごろになる前に檻を置くことは出来ないか。捕獲の確実性は増すと思うのであるが。

②カラスについて

田町山のカラスは保育園前の道路や田町地区に白い糞を垂れ流していたが、東北電力がカラスが止まれない電線をつくり設置したので田町山近辺では白い糞はあまり見なくなった。しかし、いなくなったのではない。神出鬼没で夕方になると国道105号そばの電線にとまったり、七日町等様々な場所に移動している。夕方の電線上の姿はどこにいてもどうみても糞被害からは逃れようもないし、又その姿は不気味でさえある。

本市の将来像「観光産業を活かした北東北の交流拠点をめざして」、まちづくりの基本理念「観光を活かしたまちづくり」からももう先延ばししてはいけない課題と考える。先般駆除した実績(29年度289匹捕獲)があるカラス駆除はどのようにしたのか。報奨金制度を設け、駆除目標を掲げて実行したらどうか。

③ウソについて

昨年古城山にはいつもの年より花が多く咲いた。原因は良く判らない。しかし、10年前の全山花開いた時の半分程度と私は見ている。観光資源を活かすというのは土手も山もきちんとウソを駆除しきれいに咲いた桜を見せることである。桧木内川の土手同様古城山も駆除すべきと思うがどうか。打ち方を工夫すればむやみに住宅の屋根には落ちないし、仮に落ちてても雪の上で被害はでない。先に住民から協力をえればいい。鷹の声で脅してもすぐなれるし、駆除が最良の方法と思うがどうか。金もそんなにかかるわけではない。

④カワウについて

桧木内川のアユは四国の四万十川のアユに並ぶほどの上質のアユと聞き及んでいる。しかし、近年「カワウ」の食害被害が拡大してきており放っておけないほどの被害になっているとの情報がある。

2/17日秋田魁新聞によると、県が米代川、雄物川、子吉川中心にカワウのアユ食害調査を決定したとの報道があった。

桧木内川院内川の合流地点日頂寺から上流の桧木内川でも近年急激に増えてると言われている。関係者の話によると成長したカワウ1日600g食すると言われる。1ヶ月で18キロも食べることになる。この被害に対し6,000円の報奨金を出している組合もあるという。

18年度県の被害額は報道によれば県全体で1,660万円だが、当漁業組合分はいかほどの被害か。

どのような対策を立てるのか。包括的な協議会が必要でないか。

2 病院経営について

令和元年度補正予算一般会計第8号4款3項1目に3億円の病院事業会計補助金約3億円強について質問致します。

必要になった原因として新角館総合病院移転に伴う入院患者抑制の影響、精神科医師の退職による入院病棟休床の影響、費用面では新病院の開院に伴う移転経費や病院新築による新たな長期前払い消費税償却や資本的経費による外構工事等、医療機器等導入などの控除対象外消費税の費用化したことにより増額との事ようです。

29年度から新病院での診療を開始したが、医師不足や患者の減少が深刻化し、新病院建設に係る元金の返済に3億円程度の繰り入れが必要になったということのようです。しかし、入院患者の抑制は当面での措置だったでしょうし、費用面での移転経費や消費税については税のルール上当然と思うので理由には当たらないと思います。

現在は新病院が開設された29年度から3年経過するところです。精神科の入院病棟の休床等医師不足については確かに病院経営を圧迫していると思

ます。医師確保対策に大学病院をはじめ関係機関に対し要請行動には、難儀を惜しまず努力している事には敬意を表したいと思います。

されど、資金が必要な原因のもう一つに「患者の減少が深刻化」しているとお聞きしました。

過去何度も患者サービスについて取り上げられていると思いますが、その都度注意し取り上げていけば一気に深刻化しないはずです。

商売も観光も同じで絶頂期は気づかないものです。あっと気づいた時は転落しもうダメな場合が多いのです。しかし、やりようはまだあると思います。

- (1) アンケートや意見質問等を受け付けて回答していると思うが、患者さんが意見を述べやすい雰囲気病院自体がつくっているか。
- (2) 市民の血税の補助金をこのような形で出す場面が増えてほしくはないが、ふえるのではないか。市民の代表である議会の一員が病院運営の意見を述べる場があつてしかるべきではないか。公立病院時代はあつたのである。議会が関わる病院運営審議会を設置すべきでないか。
- (3) 市民向け病院の講演会が行われている。市民に役立つ講演会とは思うがその場面で日常の病院への要望などを聞きだす工夫をし、病院経営に役立てるべきでないか。ある市民から「魅力ある病院でないと」行かないそうである。市民病院の魅力はなにか。